

希望のたね通信〜武蔵野大学版〜

栄村と武蔵野大学

栄村は、3月12日に発生した長野北部地震により甚大な被害が発生しているにもかかわらず全国的な関心が東北に集中していること、また栄村は武蔵野大学の卒業生である、山路智恵さんの絵手紙記念館もあり、以前から縁のある地のため、ボランティア活動を行う場所となりました。

被災され、生活の困難さと闘っている方々に学生として何かできることを探し、少しでも村の復興支援に協力できればと考えました。期間は7月19日〜8月31日の42日間。学生ボランティアは述べ173名が参加し活動しました。

●活動報告●

仮設住宅への訪問

横倉地区にある仮設住宅の方へイベントのお知らせなどのビラ配りをしました。

一軒一軒声を掛けながら回っている中で、「ちょっと休んでいかないか？」と声を掛けてくださる方がいて、お宅へお邪魔させて頂きました。最初は、お茶や食べ物を頂き、迷惑を掛けてしまっているのではないかと不安になりました。しかし、お話をしていくなかで、横倉地区にある仮設住宅では様々な集落の人が入居している為に、気軽に自宅で集まれるようなご近所づきあいが難しいとおっしゃっていました。

特別号

森宮野原駅交流館2階

電話 050-3583-2122

近所の人たちが集まり、お茶やおしゃべりが出来るような場所があれば良いのかなと思いました。また、私たちが訪問してお話しをすることで、一緒に楽しい時間を過ごすことが出来たのなら、お役にたっているのではないかと感じ、私達も嬉しくなりました。

家屋の片付け

地震により、壁が崩れたり、家の中が荒れてしまった家屋を片付ける作業や引越し作業のお手伝いをしました。

作業していく中で、たくさん思い出の品を見つけました。地震の為に住み慣れた我が家や地域を離れなければならない寂しさや、思い出の品を処分しなければならぬ辛さを考えると心が痛みました。

また、土蔵の片付けをしていた際には、醤油をつくる道具やママシでつけたお酒など見たことのないものをたくさん発見し、使い方や作り方を栄村の人々に聞くことで昔の人ならではの発想や知恵を学ぶことができました。



お祭りへの参加

箕作り祭りのボランテニアでは、住民の子どもたちを中心に、提灯行列と一緒に参加しました。また、栄村伝統のさいとり舞と獅子奉納を鑑賞させて頂き、栄村の伝統に触れることが出来ました。

都会のお祭りというと、屋台が並んでいるのがイメージですが、栄村の伝統的なお祭りについては一切出店はないけれど、都会と違った個性が感じられるお祭りだと思いました。また村人同士の協力や信頼性の強さを感じられ、ボランテニアの人たちを含め全員で成し遂げたことができたのは良い経験でした。



児童預りボランテニア

「児童預かりボランテニア」は仮設住宅で暮らしている、保護者の方からの「子どもを遊ばせながら預かる場を作ってほしい」という要望により企画されました。

最初は考えておいた遊びをやっても、すぐに飽きてしまう子どもがいました。ですが、直接子供達に「何がしたい？」など聞いて、一緒に考えるということをする事ができました。

「ケイドロ」、「ドッチボール」などの外遊びだけでなく、料理を作ったり、楽器演奏を聞いたりして、子供達と一緒に私達も色々な経験をしました。

ボランテニアというよりも、私達の方が学ぶ事、得るものが多くあったと思います。子供達の笑顔や誘いの言葉などに元気を貰う反面、何気ない言葉で、地震が子供達や栄村に与えた内側の傷というのが垣間見

えていました。それは私たちがどうこうできる程、簡単な問題ではないですが、外部の私たちがこそ元気がつ積極的にならなければいけないのが大切なのではないかと思われました。



短い間でしたが、お世話になりました。
これからも元気に頑張って行きましょう！

武蔵野大学一同